

鶴見半島及び大島地域の海産動物

鶴見半島は県南のリアス式海岸の中心部に位置する。九州の最東端として鶴御崎の公園化により、パノラマ展望台、海事資料館、渡り鳥館などあり、景観など自然に恵まれたところです。

半島の南側には切り立った断崖と間越地区にみられる県南を代表する広い砂浜があり、集落の多くは北側

に位置し、海岸線は荒々しい岩場と入り江の礫浜が交互にみられます。

大島は半島の先端北側にある周囲12.5kmの島です。

佐伯湾は古くからの豊かな漁場で、海産物により藩は栄えました。魚類をはじめ海産動物相は現在も豊かです。



引き潮の岩礁

岩場の小動物

岩場にはカメノテ、ケガキ、アマガイ、タマキビ、アラレタマキビなどが多く集まって生活しています。マツバガイ、イシダタミ、イボニシ、ヒザラガイなども多く、クロフジツボ、イワフジツボ、ヒライソガニ、タテジマイソギンチャクなども普通にみられます。

間越の砂浜は打ち上げられたカニモリガイ、ノボリガイの殻が多くマンジュウガイ、メダカラ、キサゴ、エガイなどが目につきます。



岩礁の表面に付着した
ケガキ



岩礁の側面に多い
クロフジツボ



岩の間のニシキウス、イシダタミ
イボニシなど



カサガイの間では多く
見られるマツバガイ



引き潮で触手を引っ込めた
ウメボシイソギンチャク



イソギンチャクの仲間では多い
タテジマイソギンチャク

底引き網にかかる小動物

湾内の深いところは、町内の底引き網によって知ることができます。網を曳くのは湾内で水深40m、深いところで90mほどです。

貝ではウラシマガイ、ビワガイ、ヤツシロガイ、リンボウガイ、ミクリガイなどが大変多くかかります。

他にウネウラシマ、ホラガイ、キヌガサガイ、ツキヒガイ、ユキノシタ、ギンギョ、イナズマヒタチオビ、アコヤガイ、ナガニシ、クマサカガイ、テングニシ、アカニシ、ツメタガイ、ヒガイ、ハナマルユキ、クチグロキヌタ、ハツユキダカラなどがとれています。カニ類ではガザミ、ミズヒキガニ、キンメガニ、テナガコブシ、サメハダヘイケガニなど種類も豊富です。



カヤ類に付いたフクラスズメ（貝）



ミズヒキガニ



コシマガニ



イボガザミ



トラフカラッパ



貝殻を背負ったヘイケガニ



ビワガイ



ウネウラシマ



ツキヒガイ



タコの仲間のアオイガイ